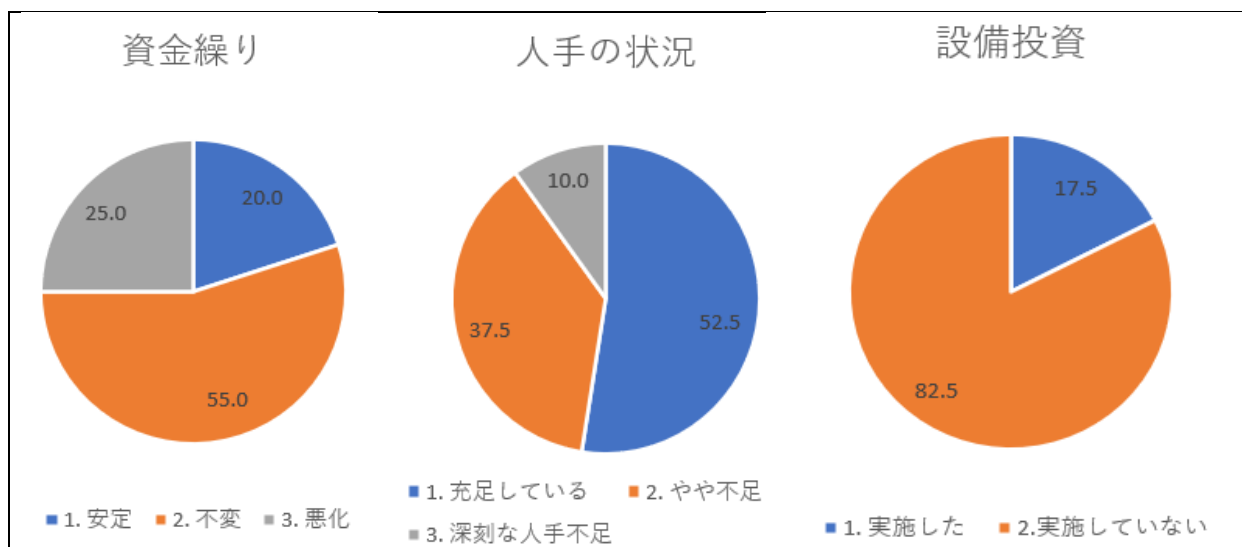


神河町景気動向調査報告書(調査対象：令和 7 年 10～12 月)

製造業				建設業			
	売上	採算	業況		売上	採算	業況
増加（好転）	2	1	3	増加（好転）	1	1	1
不変	2	4	1	不変	7	7	7
減少（悪化）	4	3	4	減少（悪化）	4	4	4
小売業				サービス業			
	売上	採算	業況		売上	採算	業況
増加（好転）	1	1	0	増加（好転）	4	3	2
不変	2	4	5	不変	6	6	4
減少（悪化）	5	3	3	減少（悪化）	2	3	6

【神河町の今期の景況】

売上については「不変」または「減少」と回答した事業者が多く、採算面においても原材料費・仕入価格・人件費等の上昇が利益を圧迫し、「不変」から「悪化」へと転じているケースが目立つ。特に物価高の影響は全業種に共通しており、消費者の節約志向の高まりや購買意欲の低下が、需要減少として表れている。



【兵庫県内の景気動向】

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

【今期の景況を踏まえた今後の経営に関する重要点】

本調査結果から、今期の景況を踏まえた今後の経営における重要点は、コスト上昇への対応と需要変化への柔軟な適応である。物価高や人件費上昇が続く中、単なる価格転嫁にとどまらず、付加価値向上や業務効率化、DX・省力化の推進が求められる。また、先行き不透明な環境下においては、販路開拓や新事業への挑戦など、中長期的視点での経営戦略の再構築が重要となる。

製造業 景況表情図 (DI の変化)								
売上	前期	今期	採算	前期	今期	業況	前期	今期
								
《町内の製造業における今期の景況》								
少子化や消費の消極化、為替変動の影響が指摘されており、厳しい事業環境が続いている。一方で、新規取引先への期待など、先行きにわずかな明るさを見出す声も一部に見られる。								
建設業 景況表情図 (DI の変化)								
売上	前期	今期	採算	前期	今期	業況	前期	今期
								
《町内の建設業における今期の景況》								
公共事業の減少や工事受注の停滞、資材価格の高騰が重なり、売上・業況ともに厳しい状況が続いているとの回答が多い。価格転嫁が進みにくい中で、収益確保が課題となっている。								
小売業 景況表情図 (DI の変化)								
売上	前期	今期	採算	前期	今期	業況	前期	今期
								
《町内の小売業における今期の景況》								
来店客数の減少や消費行動の変化が影響し、売上減少や業況悪化を訴える声が多い。季節要因や若年層の消費行動の多様化も、経営環境の不透明感を高めている。								
サービス業 景況表情図 (DI の変化)								
売上	前期	今期	採算	前期	今期	業況	前期	今期
								
《町内のサービス業における今期の景況》								
業態によるばらつきが見られるものの、全体としては個人消費の弱さや仕入・取引環境の不安定さが業況判断に影響している。既存顧客に支えられ比較的安定している事業者がある一方で、原材料供給や取引先との関係変化により、事業方針の見直しを迫られているケースも確認された。								
※DI とは・・・売上等を前期と比較し、回答割合から、景況の動向を算出する指数								
図の見方								
	+15%以上	+ 5 ～+15%	+ 5 ～- 5%	-5～-15%	-15%以上			